

・顕現後第一主日

泉のほとり



今月の詩編 「第二十九編」

神の子らよ、主に帰せよ
御名の栄光を主に帰せよ
栄光と力を主に帰せよ

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。

「私は粗野で分別もない。知恵もなく、聖なる方の知識もこの世には知恵を語る人が多くいます。格言も多いです。自己啓発のための本も数えられないほどあります。最近は、ユーチューブを開くだけでも、处世術や成功談、知恵と知識を語る言葉が氾濫しているのを見ます。それらは人から出たもので、中には頗る話があるにしても、人はそういったものを頼りに生きてはなりません。人は神から出た者、神のことばによつて生きる者です！」

自分は粗野で知恵も分別もないと告白している知恵者は、自分のみならずすべての世の知恵の言葉の空しさを知つたゆえ、また自分の知識の浅はかさを知つたゆえに、そう語つてゐるのです。そしてその行き着いた結論として「神の言わることはすべてきよい。身を寄せればそれは盾となる」と述べています。

ここで「きよい」とは精錬され、精製され、不純物などない純粹なものという意味のことばです。この世のあらゆる知恵と名乗る言葉とは甚だしく違うものです。精錬された純金のよう、純度100%、人が頼れる確かなものです。それゆえに、知恵者は「神のことばに付け足しをしてはならない。神があなたを責めて、あなたが偽り者とされないために」とも語っています。純度100%そのままの神のことばを受け、生きる。自分の判断や自分の都合に合わせ、神の教えに何かを付け加えてはならないことが教えられているのです。すると、それがあなたの「盾」となり、あなたがそれによつて守られると言われるのです。神のことばが「それは曲がったこと」と教えるなら、曲がつたことが大嫌いな神の教えから右にも左にも逸れず、真っ直ぐな道を歩む。その人は何事においても迷いのない、搖るがされることのない人生を送ることができます。

知恵者が「粗野で知恵も分別もない、聖なる神の知識もない」と自覚しているのは、かつての自分のことを決して愚か者、知恵のない者とは思つていなかつたゆえのことでしょう。

私には知恵も分別もない

う。実際、人々の間では知恵も知恵も人並み以上に持つていた人だつたと思います。

「神は愛です」という知識、教会の誰もが知つています。と共に、神は人にあらゆる試練や苦しみ、悲しみをも与えられます。「神が愛である」との知識は、あらゆる時を通して、人を精錬するあらゆる人生の出来事、時には苦しみを伴う出来事を通して知らされるのです。

そのように神の愛を知れば知るほど、どれほど深い人のための知恵が表されていることか、計り知ることのできない神の愛に、「神は愛」という知識を私は持つている」とは到底思えないので。あらゆる時を重ねていくことで、以前、知つていてると思つてたことが、本当は何も知らなかつたと言うことになるのです。

神の恵みを知ることも同様です。誰よりも誠実に生きてきた知恵者が、自分の未熟さ、愚かさに気付かされるゆえに、そのような自分に与えられた恵みは深く、大きく、まさにその恵みを知つているとは到底言えぬというその心境が「聖なる方の知識を持つてない」と表されていると思います。

反面、自分の無知に気付かず、黙ることを知らない人は、自分の知識を主張し、それを誇る人で、真理を探し求めるより、自分の知恵の正しさを主張する人です。そういう人は何事においても成長はなく、聞く耳もなく、恵みも知らず、愚かなまま生きるのでです。

人は神のことばを中心に生きしていく中、常に「自分の無知、無分別、知恵のなさ」に気付かされて生きることがなくてはなりません。そういう気づきとへりくだりが常に与えられてこそ、本当の知恵と分別を得て生きられるのです。自分は本当に粗野で知恵も分別もなかつた、そういう気づき、悟りが繰り返しあるなら、神の知恵に生かされ、神の恵みを知らないと告白しても、誰よりも聖なる方の愛と恵みを知つてゐる人です。自分の愚かさに嘆くようなことがあっても、その知恵と知識と分別、神を知る幸いに、たましいは喜び踊るのです。

2023年度

教 会 全 体 課 題

日々聖書に聴き、

御言葉に従つて歩む。

協会共同訳 ヌン(ヘブライ語の第13番目の
アルファベット名称)この
105節と112節はヘブライ語聖書でヌンから始まつて
いる。)

105 あなたの言葉は私の足の灯

私の道の光。

106 私は誓いを立て、それを果たしました。

あなたの正しい裁きを守るためです。

107 私はひどく苦しんできました。

主よ、あなたの言葉どおりに

私を生かしてください。

108 主よ、私の口が進んで獻げる贊美を

どうか受け入れ

あなたの裁きを教えてください。

109 私は常に危険にさらされています。

しかし、あなたの律法を忘れませんでした。

110 悪しき者どもが私に罠を仕掛けました

しかし、あなたの諭しから

迷い出ませんでした。

111 とこしえにあなたの定めを受け継ぎます。

それは私の心の喜びです。

112 私はあなたの掟を行うことに心を傾けます。

とこしえに、終わりまで。

(ペテロの手紙一 2章2節)

2023年度

心に刻む御言葉

生まれたばかりの乳飲み子のように、混じ

りけのない靈の乳を慕い求めなさい。これ

を飲んで成長し、救われるようになるため
です。

『詩篇119編を読む』

『今日のお知らせ』

○ 礼拝後、礼拝カテゴリーの合同班会と教会学校の
教師会が行われます。

○ 三月三一日のイースター礼拝で受洗・転入会を
ご希望の方は、一月二八日迄に牧師宛願書をご提
出ください。願書は事務所にあります。

『ぶどうの会より』

○ 礼拝後、ぶどうの会を行います。場所はカナル
ームです。

『今後の予定』

○ 一月二二日 定例役員会

○ 一月二八日 教会研修会

○ 二月 四日 信仰者に学ぶ会
役員候補者推薦

『四国便り』

「開拓20周年を迎えて」（その6）

高潔なる退役軍人のリチャード氏と尚子さん。

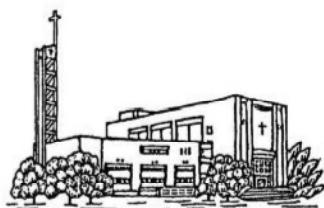
日本大使館の中では外国のいろいろな方々との出会いがありました。「忘れ得ぬ人々」の中で、退役軍人のリチャード・ディ氏は現在九十七歳、心の奥に焼きつけられたお一人です。お身体が二つ折りになり、誰が見ても車椅子が必要に見えましたが、一本の杖を頼りに誰の助けも借りずに気丈に大使館に来られました。

黒のベレー帽に黒服の正装で、たまたま私の目線の中に入った御方でした。青年職員が走り寄り「何かお手伝い致しましようか?」と声をかけると、少し微笑んでさつと片手を上げ、「大丈夫です!」と、礼儀正しく挨拶をしたのです。英國紳士の一面を見た様でした。

ベレー帽には、若き日の名誉あるバッヂが控えめに付いておりました。その名前は「恥じぬ姿勢を崩してはならぬ」とばかりに、凛とした雰囲気をお持ちのリチャード氏でしたが、皆様の方へ移動されるお姿には深い孤独感が漂つており、話しかける人は誰もいません。

主にハレルヤ！——つづく——

ジョン・フルズペル・チャーチ
ヴェロニカ・田端良恵



『今日の子ども礼拝』

説教 「地の塩、世の光」
聖書 マタイ5章13～16節
説教者 宮間彰広兄

『次週の礼拝』

● 子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「正しい者にも正しくない者にも」

聖書 マタイ5章43～48節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

● 主日礼拝（午前10時30分）

讃美歌 88番 334番

説教 「アブラハムの子なら」

聖書 ヨハネ8章31～47節

説教者 黄允湜 牧師

彼は陸海空いずれかの軍で見事な活躍をされ、誇りを胸に今も謙遜に力強くしっかりと生きています。その証で、深い学びをいただきました。国境を越え、イエス様のうるわしき御愛のご臨在にふれた私は、その場で聖なる御名を心から喜び賛えておりました。



主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 2番 270番
説教 「明日のことまで思い悩むな」
聖書 マタイ6章25~34節(新約P.10)
司式 石川 一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「前奏曲、フーガとシャコンヌ ハ長調」
D.ゴクスティーフ

○讃美歌2番

1.いざやともに こえうちあげて

くしきみわざ ほめうたわまし

つくりましし あめつちみな

かみによりて よろこびあり

2.母のむねに ありしときより

わがふむみち さきわいたもう

いまものちも あだをふせぎ

世のわざわい のぞきたまわん

3 まよいを去り やすきをあたえ

つねにめぐみ なぐさめたもう

父なるかみ み子 みたまに

代々みいつと みさかえあれ

アーメン

○讃美歌270番

1.信仰こそ旅路を みちびく杖

よわきを強むる 力なれや

こころ勇ましく 旅を続けゆかん

この世の危き 恐るべしや

2.わが主を頭と 仰ぎ見れば

ちからある泉は 涌きて尽きず

めぐみ深き主の 御傷みまつれば

わずかに残る火 ふたたび燃ゆ

3.主イエスの御跡を たどりゆけば

けわしき山路も 安けきみち

いかで迷いうべき なぞて疲るべき

ますぐに御神へ 近づきゆかん

4.信仰をぞ わが身の 杖と頼まん

するどき剣も くらぶべしや

代々の聖徒らを 強く生かしたる

御靈を我にも 与えたまえ

アーメン

聖餐曲「主に自らを委ねよ」

(オラトリオ「エリア」より) H.メンデルスゾーン

後奏曲「たえにうるわしき」J.バッハ

*礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。